

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュちりゅう		
○保護者評価実施期間	令和6年12月11日		令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和6年12月11日		令和6年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月29日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や各種連携機関と密に連携を取っている。	送迎時に保護者や学校、保育園、幼稚園と児童の様子を細かく伝えあって連携を図るようにしている。	保護者や各種関係機関と連携したことをスタッフ間で周知し、共通を図ることを徹底していく。
2	問題が起きた際の報連相が早く、迅速に対応をすることができている。	細かいことでもミーティングなどで全体に共有したり、自分では対応が難しい場合には、管理職や周囲のスタッフに相談したりしながら進めることができている。	今後も自分ひとりで問題を抱え込むのではなく、周囲に相談して協力を求めながら対応していく。
3	子どもに向き合って丁寧な支援を行っている。	個別支援計画やモニタリングを全体で共有しながら、児童の個々に沿った丁寧な支援を行うことができている。	グループの研修に参加することや個別支援計画の再確認をするなどして、その子に合った支援方法を適切に行っていけるよう努める。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの人数に対して、支援スペースが狭く、やりたい遊びができないことがある。	もともと、水道関係の建物を改装して使用しているため、造りが入り組んでいたりと、段差がありバリアフリーの観点から見ても難しく感じる点がある。	限られたスペースの中でも、子どもたちが楽しめるよう、活動を工夫していく。 子どもの人数が多い時には、特に安全面に配慮して、スタッフの配置を考えていく必要がある。
2	父母の会や保護者会などが開催されず、保護者同士の交流の機会があまりない。	コロナ渦以降、ママ会や保護者会等を再開できるまでには至っていない現状がある。	保護者同士の交流で子育ての悩み解決に繋がれるといったメリットもあるが、開催するにあたりスタッフの負担が大きくなることも考えられる為、再開するにしてもどのように開催するかは検討が必要である。
3	職員の入職・離職が多く、人員の入れ替わりが頻繁にあるため、不安を感じる保護者もおられる。	福祉業界という職業柄、主に労働の条件や環境が原因で人員の入れ替わりが多くなってしまっていると考えられる。	職員の労働条件の見直しや業務過多になっている部分は、業務の削減・効率化に努めていかなければならない。また、明るく働きやすい職場の雰囲気を作りたい。